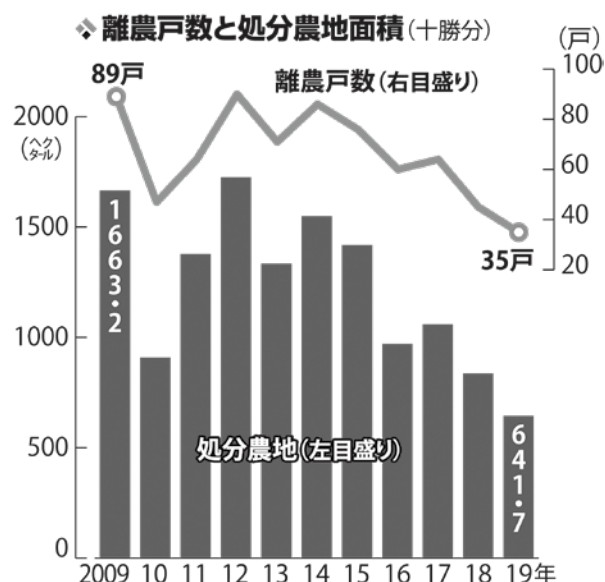


全道の離農数は17年が636戸、18年は611戸で数字上では減少。十勝も離農は減っているが、道農政部は「全体の農家数が減っていることから、離農の数も減っている状況」と分析している。



久保田さん(帯広) 農水大臣賞 小豆収量、道平均の1.8倍

2021年7月7日

「土づくりが効果」 堆肥・緑肥活用

全国豆類経営改善共励会 J A 全中主催

J A 全中などが主催する2020年度の全国豆類経営改善共励会の小豆・いんげん・落花生等の部で、帯広市美栄町の久保田満雄さん(56)が、最高位の農林水産大臣賞に選ばれた。小豆の収量が道平均を大きく上回った点が高く評価された。

収量や省力化など経営改善に努力し、優れた成果を残した生産者・団体を表彰している。5月中旬にオンラインで審査会が開かれ、全3部門・九つの賞に6人、3法人が選出された。

道内からは久保田さんと、上川管内美瑛町の小口元範さん(小豆・いんげん・落花生等の部、農水省政策統括官賞)の2人が選ばれた。十勝の生産者が同部で農林水産大臣賞を受賞するのは4年連続。

久保田さんは畑作農家で、37ヘクタールに小豆、ナガイモ、ジャガイモ、ビート、小麦などを栽培。小豆は「きたろまん」を2.9ヘクタールで作付けしている。

主催者によると、久保田さんは20年産小豆の10アール当たり収量が401キロで、道内平均(220キロ)の約1.8倍。地力増強のため堆肥や緑肥を有効活用している。久保田さんは「受賞を聞いて驚いた。土づくりが作物の出来につながったのではないかと話している。

全体の表彰式は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。13日に、帯広地方合同庁舎で表彰式が行われる。



久保田満雄さん

管内就農前年比34人増

2021年11月13日

全道は2年連続500人割れ 7年ぶり3桁106人

道農政部がまとめ

道農政部は、2020年(1～12月)の「新規就農者実態調査」をまとめた。全道の新規就農者は474人。19年比20人(4.4%)増も、2年連続で500人割れとなった。十勝管内は、道内14総合振興局・振興局の中では、最も多い106人で19年比34人増。2014年以来、7年ぶりに3桁に達した。新規学卒者とUターンの就農者が、それぞれ前年を上回り、全体の数字を押し上げた。

十勝で新規就農した106人の内訳は、①農家出身者で学校卒業後や研修後に就農した「新規学卒」が48人(19

年比16人増)②農家出身者で他産業で働いた後に就農した「Uターン」が50人(同23人増)③農家出身者以外な